

令和7年度第1回蓮田市社会教育委員会議 会議録				
開催日時	令和8年3月11日(水)			
	午後2時00分 開会		午後2時53分 閉会	
開催場所	蓮田市環境学習館 体験学習室			
委員出席状況	氏名	出欠	氏名	出欠
	今井 和	出席	佐々木 隆彦	出席
	栗原 均	出席	田辺 雅治	出席
	小池 祐子	欠席	鷺林 潤壺	欠席
	近藤 純枝	出席		
事務局出席者	生涯学習部次長兼社会教育課長 馬場 邦明 副主幹 飯野 浩人 主事 大西 広海			
傍聴者	なし			
会議事項	<p>議 事</p> <p>(1) 令和7年度事業報告及び令和8年度計画について</p> <p>(2) 令和8年度社会教育関係団体への補助金交付予定について</p> <p>(3) 蓮田市の社会教育の推進における課題について</p>			
会議経過(議事の要旨)				
<p>1. 開会</p> <p>今井委員長より開会の挨拶を行った。</p> <p>2. 議事</p> <p>(1) 令和7年度事業報告及び令和8年度計画について</p> <p>《事務局》 資料に基づき説明。</p> <p>《委員》 放課後子供教室は来年度一校増えるとのことだが、どこを予定しているか。</p> <p>《事務局》 蓮田北小学校、黒浜北小学校、黒浜西小学校で実施ができていない。</p> <p>これらの三校のいずれかでの実施を目指して、スタッフを探している状況。</p>				

- 《委員》 中学校部活動の関係で、人材バンクというような方向が話題に挙がっている。人材バンクの登録者数が58名ということだが、登録されている種目や性別はどのようになっているのか。
- 《事務局》 団体と個人含めて58名の登録があるが、主に多いのは美術工芸等の文化系、ヨガなどの体操系が多い。項目として性別を入れていないため、名前で判断する限り男性女性の偏りはないように思われる。
- 《委員》 なぜ男女ということを伺ったかという、社会教育の分野で活動いただいている方々が、高齢者や女性の方たちが多く、これから小学校や中学校の皆様に参加いただける方向を作っていかなければいけないと思う。これから指導者登録の範囲や枠組みは何か考えているか。小学生、中学生を教えられる方などの分類は考えているか。
- 《事務局》 登録のときに指導できる範囲が、乳幼児から小学校、中学校、高校生、成人、高齢者とカテゴリを分けて、どの年代で指導が可能か把握している。
- 《委員》 やはりこれから部活動の地域移行の関係が社会体育に必要なようになってくるかと思う。スポーツ関係でも、中学生などの指導ができるような形の人材バンクというものがようになってくるのではないかと思い、その旨お話を伺った。そういう形の人材を養成していただきたいというのが要望。
- 《事務局》 中学校の部活動、特に土日が地域活動に移行するにあたり、人材バンクの制度が活用できるようにうまく連携したらどうかというご意見として受けとめさせていただいた。部活動の地域移行については、学校教育課でも指導者を担えるような人材を探すということで、連携してしっかりと情報共有に努めていきたい。
- 《委員》 放課後子供教室の平野小学校の参加率が高い。何か理由があるのか。
- 《事務局》 平野小学校は、実施の頻度も週1～2回のペースでやっていただいていることと、一回に参加する児童が50人を超えることが多い。
- 《委員長》 勉強を見てくれるところもあると聞いており、要望も多いのではないかと。実際、学童の中には勉強は見ることができないと言っているところもあると聞くので、そういった意味で、平野は異なる方法を模索されているということではないか。それがあってこの回数と人数だと感じている。
- 《委員》 平野には学童はないのか。
- 《事務局》 ある。放課後子供教室が終わると家に帰る児童と、学童に行っている児童はそのまま学童に行く児童がいる。44回なので平均して毎週1回ぐらい。放課後子供教室は、いろいろな居場所の中の一つの選択肢として提供しているところなので、やはり頻度が異なってしまう。コーディネーターや指導員の方々が非常に充実していて、この回数を開くことができている。新しいところで始めたいと言っても、見てほしい保護者、行きたい児童はいても、それ

を担える人材を確保するのが一番の課題だと思っている。

《委員長》 平野をトップランナーとして地域に広げていけるのかというのも課題の一つだろう。地区のいろんな状況も違うだろうし、保護者の方の考え方もいろいろ違う。そのあたりを睨みながら、今後どうやって進めていくかが一つのポイントだと思う。

《委員》 他の小学校はどのような活動を行っているか。

《事務局》 黒浜南小学校では、回ごとに指導者の方も内容も違っていて、折り紙や、竹とんぼなどの昔遊びの活動が多い。黒浜小学校は、アロマジェルポット作り工作系、ボードゲーム。蓮田中央小学校は今井委員長にお越しいただき、郷土かるたを4回にわたって実施した。蓮田南小学校は、スポーツ推進委員を招いてポッチャをやる予定としていた。

《委員》 ほとんどの活動で、ボランティアとして何かをやっていただいているというのが蓮田市の課題。どのように放課後子供教室の指導者になっているのか。

《事務局》 各教室にはコーディネーターの方がいらっしゃって、その方たちを中心に、スタッフの方たちに運営をお願いしている。謝礼もお支払いしている。その方々の中で活動を計画して、必要に応じて外部の講師をお願いをして指導にあたっている。

《委員》 金額等の規定はあるのか。

《事務局》 コーディネーターの方が1時間につき1,200円、その他のスタッフの方は1時間につき1,000円お支払いしている。

《委員》 材料費は個人持ちか。

《事務局》 はい。

《委員》 教室を増やしていくというのは、なかなか難しいことだと思う。学校側の意向もあると思うが、平野小学校さんのように、人数がこれほどたくさんいるところをうまく活用して、他の学校でもそのような形ができればよいのでは。学習指導をするのか、折り紙などの活動をする方向にするのか、方向性を定めてもいいのではないかな。保護者が連れて行って選べるというのもいいのではないかな。そんな形で子どもたちを見守っていければプラスになると思う。

《委員》 放課後子供教室のスタッフは人材バンクの登録者ではないのか。

《事務局》 人材バンク登録者ではない。各学校それぞれ違うが、今やったださっているのは保護者の方や元々保護者だった方々。

(2) 令和8年度社会教育関係団体への補助金交付予定について

《事務局》 資料に基づき説明。

《委員》 P T A連絡協議会がなぜ同額になるだろうとお考えなのか。

《事務局》 市の予算の比較で言えば、令和7年度、令和8年度どちらも27万円と変わ

らない。ただ、令和7年度の事業実績として10万円ということになっている。令和8年度は今、議会で予算審議をお願いしている。予算としては27万円としているので、ここの表記上は27万円で、前年と同程度になるだろうと思われるが、今予算案として出している数字をここに表示させていただいている。繰り越しで来年使うことはできない。

- 《委員》 このスポーツフェスタの140万円は、以前開催したときと同じか。
- 《事務局》 こちらに数年前の資料が手元がないが、これも8年度の予算額を計算している。推測になってしまうが、おそらく今までの実績を踏まえた当初予算案だと思われる。
- 《委員》 予算に合ったやり方をやればいいのかと思うが、いろいろなものが値上がりしているので、同じ額というのも、今後のことを考えるとどうかなと。
- 《委員》 以前は運動会をやっていた。その後スポーツフェスタが始まり、大規模改修の前に1回開催し、それが基本形になっていると思う。
- 《委員長》 私の団体もそうだが、いろいろな交付金をどうやって持ってくるかが課題。ただ、そうは言っても蓮田市はお金を出していただいている方だと思う。他のところでは10分の1ぐらいのところも結構多いので、そういう意味では、行政に配慮していただいているという認識でいる。

(3) 蓮田市の社会教育の推進における課題について

- 《事務局》 資料に基づき説明。
- 《委員》 見やすいフローを作っていただき、これを見ると課題がどこで、どういう方向性を考えていく必要があるかが明確にわかる。
- 私共がやっている社会体育では、少子化により各種目で団体が減っている。ところが、サッカーやスケートボードなどの新しい種目では、蓮田市ではなく、外部に行ってクラブで活動しているというのが現状。陸上では、他市町村から入ってきているのが特徴。白岡市、さいたま市、上尾市伊奈町のお子さんたちが入会し、活動をしている。
- 活動の中においては、やはり謝礼の問題点があり、クラブ化になると親御さんの負担や、送り迎えなどの問題が出ている。蓮田市の陸上では、多目的広場が活動場所になっているので、送り迎え等はそれほど負担にはならない。ただ、市外が会場となる大会などは移動が可能な方は大会に出られるが、仕事で忙しい方や余裕がない方は、参加できないというのが現状。
- 陸上については、中学校で地域移行となって、地域に活動の場が広がっていく一方、学校での部活動がなくなってしまうという問題点があり、何かできないかと思っている。中学生が土日に小学生を教えたり、一緒に活動できたりする体制ができたらいいなと思う。小学校中学校高校と分けられて

しまうのは仕方ないことだと思うが、そこに、社会体育の分類の中に中学生や高校生が入ってもらえたらと思っている。

《委員》 私はスポーツ推進委員をやらせていただいているが、やはり令和8年度の事業計画を皆で考えていった中で、最初いろいろなアイデアが出るが、最終的にはなかなか新しいものに取り組んでいけないのが残念なところ。委員の中でも、今、中学校の体育祭で何をやっているか把握しておらず、それを見に行く事業計画を出したが、見送ることになってしまった。新しいことに対して、なかなかまとまりがつかない。現状を知った方がいいと思うが、なかなかそれが事業として採用されない課題がある。

《委員》 私どもの団体でも、やはり指導者不足になっている。手伝うのはいいが、ずっとやるというのは難しいという方が多い。それで指導者不足になっており、後期高齢者の世代が指導者やっている部分がある。

《委員》 民生委員の立場で言うと、今の課題は孤立孤独。だからこういう社会教育の場を通して居場所につながればいいのでは。若いお母さんにしたら、昔は公園デビューがつながるきっかけだった。これからはこういう社会教育の講座等に出て、子育ての悩みが打ち明けられるような場に社会教育がなればいいのではないかと。

高齢者は孤立孤独の課題がある。自分の近所でも一人暮らしで、2人で暮らしていても、介護しながらの2人暮らしがいる。自分から外へ出ればいいが、なかなかできない。そういう方にも、資料のカテゴリで高齢者という部分もあったように、それこそウェルビーイングにならなければならない時期。一人で孤立していると、亡くなったときも心配。最後まで学ぶ姿勢があれば、ウェルビーイングにもつながる。だからそういう観点で、社会教育のいろいろな講座で、各世代で繋がって仲間づくりにもなればいいなど。民生委員から声かけをしていかなければならないが、宣伝も必要だと思う。

《委員長》 一つは社会教育にはいろいろな分野があるが、認知度が高くない。もう一つは、主催側の方がいろいろな活動を計画するが、それを中心になって動かすメンバーの数がどうしても少ない。私どものところでも、コアメンバーは6～8人ぐらいだが、それらのメンバーと、活動のボリュームのバランスが課題。ボランティアで動いているので、当然自分の仕事、生活、家族がいる場合は家族をケアしなければならない。その上に、このボランティアという問題が入ってきたときに、バランスをどううまく取っていくのか。参加者側からするとそのような機会がたくさんあると入ってくるが、それに対しての運営側の人員が小さければどうしても負荷がかかってしまう。やはりひとつは、中心となるメンバーを増やしていく形を取らないと、なかなかマスを大きくしていくことは難しいだろうと思う。

また、運営上としては、情報を流して参加をしてもらうときに「全部お願い」

のような形で来てしまうところも、大きな課題。児童を保護もしくはそれをサポートしている人たちが、参加させたら全部任せるようなところがあり、それが社会教育という意識にあまり繋がってないのではないか。その意識づけというのをどのようにやっていくかというのが、組織的には課題となってくると思う。

あとはいろいろなところからボランティアを集めてくると思うが、ボランティアは教育への意識や技術が高いものばかりではないので、そこをどのように教育していくのか。ボランティアの教育機関のようになってしまっているというところもある。そうするとその先の、本来目的としている対象のところまでなかなか力が注げないということもある。そこは組織的な動きを今後どうしていくのか、一つ大きな課題にではないかと思う。

今日各委員から出た意見をもとに、社会教育課で検討してもらいたい。

3. 閉会

栗原副委員長より閉会の挨拶を行った。